

シルバーだより明石

銀の花

正会員数

1,319人

男 898人

女 421人

(平成25年12月1日現在)



木版画：能勢 治男

輝かしい新年を迎える
謹んで皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします

謹賀新年

【発行】一般社団法人 明石市シルバーパートナーセンター

〒673-0026 明石市船上町5-2

TEL (078) 922-5000 FAX (078) 922-5040

URL <http://www.sjc.ne.jp/akasi/>

【企画・編集】広報部会



新年のごあいさつ

理事長 寺山陽三



新年明けましておめでとうございます。

皆様には、ご家族お揃いで健やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

平素より、当センターの事業に格別のご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

本格的な超高齢社会を迎える中、生産年齢人口が減少していく中、健康で働く意欲のある高齢者がこれまでに培った能力や経験を活かし、生涯現役で活躍し続けることが期待されています。

また、高齢化に加え、少子化、核家族化が進む中で、これまで家族が担ってきた子育て、高齢者に対する生活支援、介護などは、社会全体で支援していく必要性が高まってきています。このような分野には、経験豊富な高齢者が活躍できる場が多く存在していると考えられ、現役世代の補助的な役割を担い、地域社会の重要な担い手として活躍することが望まれています。

このようなことから、シルバー人材センターの役割は今後ますます高まるものと考えられます。

一方で、当センターの契約金額は、長引く不況の影響等により平成18年度をピークに減少傾向にあります。また、65歳を迎えた団塊の世代が本格的な退職期を迎えたため、会員数は増えている状況です。

そのため新たな就業機会の開拓が必要となっており、今年度から兵庫県と明石市の広報紙を配布する事業に取り組んでいますが、まだまだ、就業率は低く、幅広い分野で就業の機会確保に取り組んでまいりたいと考えています。

「自主・自立、共働・共助」の理念を大切に、会員がその蓄積された知識・経験を活かし、自らの健康維持とともに、地域社会の貢献をめざすシルバー人材センターの実現に向けて、これまでの取り組みをより一層発展させ、皆様とともに一歩一步前進してまいりたいと思っています。

年頭にあたり、皆様にとって実り多い年であることを願うとともに、ご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

安全委員会からのレポート

事故を無くしましょう

安全委員会

北澤委員長はじめ委員及び理事・事務局職員とともに11月19日剪定作業、除草作業の現場パトロールを実施しました。

寒い中会員さんは元気に、真剣に仕事に携わっておられました。大きな問題となる場面はなかったですが、長い柄のついた剪定用の両手ばさみが立てかけてありました。そばを通った際にケガをしない様に、また倒れて刃を傷めない様に寝かせておくべきだという意見があり、その場で指摘させていただきました。

パトロール後の委員の会合で次の提案がありました。

- ①地面にシートを広げておけば、刈った枝や葉の清掃作業の効率が計れる。
- ②複数の会員が一緒に働いている中では、それぞれの意思疎通が安全のために非常に重要だ。ということでした。



そして、パトロールに参加した荒川理事の意見として

- ①安全（事故防止）に対する意識の向上（安全文化の更なる育成）を図ること。
- ②そのため事故の原因究明、対策等再発防止のため会員に対する研修会（講習会）を可能な限り頻繁に開催する。

などが肝要ということでした。

以下、安全委員会からのお願いです。

講習会の開催について

就業場所への行き帰りに交通事故が大変多く発生しています。そこで昨年警察のご協力を得て交通安全のための講習会を実施しました。多くの会員さんに参加いただきましたが、まだまだ全員という規模には達していません。更に実施して会員の皆様全員に参加いただけるように計画しています。具体的な時期、内容は改めて案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

事故報告書について

従来、あらゆる事故（傷害事故、物損事故）に係わる報告書は、事務局で作成、処理を行ってきましたが、今後、すべての事故報告書は事故当事者により作成、提出していただきます。

これは事故当事者の発生事故に係わる自己確認や認識に役立つものであり、同種の事故の再発を防止することに資するものと考えます。会員がお互いに事故に対する厳しい目を養い、事故ゼロを目指して努力しましょう。

安全パトロールの結果報告について

安全パトロールを実施した結果を今まででは活用できませんでした。今後はレポートを会員の方々にフィードバックさせていただき、パトロールした安全委員の真摯な目で見た結果を聞いていただきたいと考えています。



様々な活動の記録

a l a c a r t e

家事援助・子育て支援研修 開催

兵シ協主催の研修会をアスピアをメイン会場として当センターが実施しました。最近家庭での需要の高い仕事に関する内容になっています。今回はバラエティーに富んだメニューで、子供と楽しむ折り紙、調理の実習、当センターの事務所を使った清掃実習、家庭での救急処置、介護施設での車椅子の操作・体験。また認知症の方との接し方などを勉強していただきました。11月1日から29日までの間、合計8回に及ぶロングランでしたが、男性1名を含む25名の方が受講され、全員が修了されました。又、今回参加希望者が多いことから12月3日から第2回目を実施。2回目も26人中24人が修了し、高い成果を上げることが出来ました。



講義と調理実習風景

あかしふれあいフェスティバル 2013

恒例のあかしふれあいフェスティバルが10月26日産業交流センターで実施されました。

当センターからは、松谷会員の石と板に絵を描くイベントと、高原会員のスライム遊び、そして福田会員の折り紙教室を実施しました。多くの親子のみなさんに喜んでいただきました。



石と板に絵を描くコーナー

会員作品展

今年はJR大久保駅のコンコースで10月21日から31日までの11日間、会員のみなさんの作品を展示しました。18名の方々から作品が提供され、絵画、版画、写真、陶芸、手芸など26点の力作を展示しました。



右の写真は明石の蛾を集めて資料にしたユニークな作品

兵シ協事業推進大会で永年表彰

10月31日、神戸新聞松方ホールで開かれた兵シ協主催の事業推進大会で、明石市シルバー人材センターから井上喜代司さんと吉田史郎さんが、15年の永年表彰を受けました。

お二人とも地道な活動をされてこられました。私たちも仕事に継続して努力する姿勢を見習いたいものです。



井上喜代司会員と吉田史郎会員（右写真左から2人目）

冬休み 親子三世代学習講座

能力を生かして社会に貢献することは、シルバー人材センターの一つの役割です。12月26日に衣川コミセンで、石や板に絵を描きましょうという、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんと子どもたちが一緒に参加できる、三世代対象の絵画指導の講習会が開かれました。サンテレビからの取材もありました。

同好会(サークル)活動報告



手芸同好会シルバーフェスティバルに参加

昭和39年東京オリンピックの時は、私たち可愛い女性でしたが、今では好きなことができる、シルバーとして新年を迎えるました。

月1回の好きな手作り小物、作品作りをして楽しんでいました。10月5日（土）6日（日）の両日、兵庫県シルバー人材センター協会が主催する「シルバーフェスティバル」があり、私たち明石市シルバー人材センターの手芸同好会が参加しました。7月にお話があり、メンバーに相談したら、反対意見もなく参加決定。「やってみようか」「できるかしらん」という一抹の不安も抱えながら参加することになりました。



同好会のみなさんおそろいのエプロン

あの暑い夏を作品作りに奮闘し、熱い汗を流し、何度か集まりアイデアもたくさん出しあって思った通りの作品もでき上りました。今から思うと素晴らしい同好会の皆様の団結力でした。

初日の5日は朝雨で心配しましたが、晴れてきてよかったです。「フェスティバル」開始で、ラジオ公開生放送、シルバー会員によるイベント、コーラス、ハーモニカ演奏、餅つき、おやじジャズバンドライブ…… ゆるキャラの明石の「時のわらし」、兵庫県の「はばたん」も参加。

折り紙の福田さん、石や板に絵を描く松谷さんも参加していただき、明石のコーナーを引き立てていただきました。会員さんも参加して、子どもたちもたくさん来てくれて、にぎやかに楽しみました。私たちが作ったものもたくさん売り上げました。



たくさんのお客さんで、たくさん売れました

私たちの年齢は、2回目の「おもてなし」で迎える東京オリンピックを見ることができるという、大変な幸せに感謝しています。「元気で、仲よく、おしゃべりし、食べる」ことを合言葉に手芸同好会は頑張っています。

毎月第1火曜日10時から、センター事務所の2階の会議室で同好会を開催しています。手芸の好きな方、お待ちしています。

手芸同好会 会長 松原 初美



ぶらりウォッチング・囲碁将棋・カラオケ・手芸・童謡唱歌

受付・相談はセンター事務局まで

TEL 922-5000 月曜～金曜の9時～17時

【担当：まさい・おざわ・まえかわ】

会員ふれあい広場

今回は「ふれ愛サポート隊」のメンバーとして従事している井村すみ子さん（朝霧町在住）を紹介いたします。



当センターでは、平成21年11月に「あかしシルバー救急隊」。翌年2月に「ふれ愛サポート隊」が発足しました。いずれも高齢者世帯の福祉・家事援助のサービスの提供として事業化されたものです。折から、近々4人に1人(25%)が60歳以上になるといわれています。明石市でも同様に60歳以上の人口が23.2%（10月1日現在）となっています。この事業も発足から4年近くになり日々問い合わせも、利用者も増えてきております。

井村さんの最初の仕事は、お墓の参拝の付添でした。発注者の方は、耳の遠い方で、足もご不自由の方ですがタクシーで同行され、次回も是非にとお喜びをいただいたそうです。

また看護補助として長年お勤めをされて来た経験を生かし入院患者さんの見守り・話相手もしていただきました。偶然にもその入院患者さんと以前お世話された方とはお知り合いで、自然とその入院患者さんとのお話も弾み、話題が次々と広がり、楽しい時間を過ごせたとのお話を聞

『センターと共に歩んで』(14)

けました。さらに、以前ご主人のご家族と同居し、多い時には10人の家族で生活をされたとか。

ヘルパーの資格を取りお舅さんと一緒にお姑さんのお世話をされ、見送られています。お姑さんからは、記録の薄れる中、嫁である自分の名前を呼んでもらえた。と、お義母さまとの日々を懐かしく話され、「親子間での“感謝”的気持ちも大事ですね。」とつくづく。我々にとっても耳の痛い言葉もいただきました。

家事に追われるよりも、外に出たい。いつもでも社会の中で交わりたいとの思いの強い井村さんですが、花との出会いも大切にされています。長年、自宅での鉢植え・プランターの花にも愛情を注がれ、ご近所の方たちの憩いの場になっているそうです。



ふれ愛サポート隊の仕事は今後増え、無くてはならないシルバー人材センターの仕事として定着していくことでしょう。おもてなししが流行りになっていますが、ありがとうの気持ちを大事にされている井村さん。これからもシルバー人材センターでのご活躍を期待しております。

(原田 澄子)

「あかしシルバー救急隊員」「ふれ愛サポート隊員」を募集しています

明石市内でも高齢者の一人暮らしが増え来ました。“電球が切れてしまった・外出したいが一人では不安・朝のゴミ出しができない・布団を干したい・窓ガラスをきれいにしたい”等々相談事が多く寄せられています。元気なシルバー会員の皆さんでご家庭内のちょっとしたお困りごとを解決したいと思います。お手伝いをしていただける方は事務所までご連絡ください。

明石市シルバー人材センター TEL 078-922-5000



会員文芸ひろば



「難聴」

和坂小学校区 森山 桂子

わが家はマンションの六階にある。すぐそばには池があり、その周辺に樹木が生い茂っているので夏場には蝉も沢山いるのだろう。夜明けと共にせわしく鳴き出しているのだろうが、私には全く聞こえない。

私の聴力は音域から言えば、健聴者の三分の一しかない。高音域が全く聞き取れないのだ。

蝉の声は二十代で私の耳から消えた。

それでも若い頃はさほどでもなく、日常生活に支障をきたす事はなかったのだが、徐々に聞こえない範囲が広がってきて、五十歳を超えたあたりからは不便な事だらけになつた。

高い音が聞こえないというのは老人性難聴と同じなので、耳に関しては、早くから老人の気持ちがよくわかつっていた。昔は「年寄りの勝手ツンボ」という今なら差別用語にあたる言葉をよく聞いたものである。必要なことは聞こえないのに、悪口などはよく聞こえることを皮肉つたものである。しかしこの表現は老人にはいささか氣の毒だと思う。決して「勝手」ではないのだ。本当にそういう聞こえ方になるのだから仕方がない。

人は悪口を言う時、大抵の場合音程を下げ、ゆっくりとした口調になつていい。これは老人には聞き取り易い。反対に賑やかな会話は、高い音程で早口になりがちである。これは老人には最も分かりに

くいパターンである。高齢の難聴者が身近におられる人は、是非その点を理解してほしい。

加えて、難聴者への対応として、大きな声なら聞き取ってもらえるだろうと考える人が多いが、実はそうでもないのだ。大きく張り上げた声は響き過ぎるし、アクセントも普段とかなり変化するので、案外わかりにくい。

最も聞き取り易い声は、アナウンサーがニュースを読む声、つまり「ゆっくり、はつきり」である。このことに気をつければ、相互のコミュニケーションは相当改善できると思う。

更には、耳もとに語りかける人も少なくないが、これも余りよくないのだ。それよりも正面から相手の唇の動きを見た方がずっとよく判る。

不便なことは多々あるが、利することも無いわけではない。例えば、接する人の人柄を大まかだが短時間で見抜けることがある。といつても大げさなことではなく、障害に対する反応が人それぞれ異なるという点においてである。

そして、難聴という棘は、私の心をいくばくか耕してくれたのではないかと思っている。が、それにしてはたいして人間的に豊かになったとも成長したとも言い難い

なあ、というのが正直なところである。



コーヒーブレイク



最近、地元地方紙で「終活」に関わる記事が紹介された。超高齢化社会が到来し生前に人生の締めくくりを準備するいわゆる「エンディング・ノート」への関心の高まりを反映したものだろう。そこで、あまり大袈裟ではなくとも、自分の人生を振り返って回想録として「自分史」を執筆してみることを提案したい。私も現役生活引退直後から、「自分史」に挑戦し、あしかけ3年を要して原稿用紙425枚に及ぶ自分なりの大作(!!)を完成させました。幸い若い頃からエッセーや各種論評など数多く執筆することを趣味にしてきたので、書くことには全く抵抗はなく、時には時代考証の為、故郷の「郷土史」閲覧に図書館に通った楽しみもありました。最近はネットでブログが流行っているが、もう少し腰を落ち着けた長編作品にチャレンジしてみると、初めは意識しなくとも、執筆を決意すれば、材料は泉のように湧き上がってくるものです。私の場合、親族へは形を変えた遺言書であり、交友関係者には長編のエンディング・レターが出来たと思っています。新年を迎えるに挑戦しようとなさっている皆様、是非お勧めしたいと思います。

(荒川 克博)

事務局からのお知らせ

◆健康保険法の改正について

～就業中の負傷等は健康保険で～

従来から就業中の負傷等については、国民健康保険が適用されていましたが、社会保険については適用外になっていました。

奈良県のシルバー会員（社会保険加入・被扶養者）の事故により問題が提起され、社会問題化しました。それに伴い、この度見直しが行われ、健康保険（社会保険）が適用されるようになりました。改正内容は次のとおりです。

改 正 後

この法律は、労働者又はその被扶養者の業務災害（労働者災害補償保険法第7条第1項第1号に規定する業務災害をいう。）以外の疾病、負傷若しくは死亡又は出産に関して保険給付を行い、もって国民の生活の安定と福祉の向上に寄付することを目的とする。

改 正 前

この法律は、労働者の業務外事由による疾病、負傷若しくは死亡又は出産及びその被扶養者の疾病、負傷若しくは死亡に関して保険給付を行い、もって国民の生活の安定と福祉の向上に寄与することを目的とする。

健康保険法第1条 平成25年10月1日施行

◆シルバーマーク入り帽子が変わります

シルバー人材センターの帽子が4月より新たに紺色の「反射ベルト付帽子」に変わります。価格は一部センターで負担しますので、700円（税込）での販売となります。

H24年度安全標語優秀作品 「無事故で咲かそう シルバーの花」（作）足立 均

◆確定申告について

会員のみなさんが受領の配分金は、税法上「雑所得」として所得税の対象となります。「平成25年度配分金支払証明書」と「申告のしおり」を2月中に送付しますので各自申告の際にご利用ください。

◆配分金振込日のご案内

就業月	振込月日
12月分	1/20（月）
26/1月分	2/14（金）
2月分	3/14（金）
3月分	4/15（火）
4月分	5/20（火）（会費納付月）
5月分	6/13（金）

◆平成25年度（上半期）事業実績報告

（平成25年4月～平成25年9月）

●会員数 1,311人（9月末）	●受注件数 2,365件 内訳 （累計）
●就業実人員（人） 979人	公共 140件 民間 2,225件
●就業率（%） 74.7%	●契約金額合計 327,205千円
	内訳 公共 89,043千円 民間 238,162千円

編 集 後 記 EDITOR'S POSTSCRIPT

- 正月号の表紙は能勢治男会員の木版画を使わせていただきました。年賀状用の作品です。正月号に相応しい春を愛でる雰囲気のある表紙になりました。能勢会員は本格的に版画をされ、版の木目を活かした自然で優しい印象の作品を手がけておられます。会員作品展には毎回ご出品いただき、センターの事務所にも展示しています。
- 今年も、「銀の花」は皆様への情報源として記事の内容の充実を図りたいと考えます。何卒よろしくお願い申し上げます。
(広報部一同)